日本共産党
流山深井後援会

ニュースあすなろ

14年３月15日
第１８１号
発行責任者
菊池 伍郎
TEL/FAX
7154−0526
（部内資料）

「原発いらない」

再稼働方針に抗議の３万人東京

震災から3年　福島を忘れない

3月9日、全国で「原発ゼロ・再稼働ノー」の大統一行動が行われました。

東京では、首都圏反原発連合・原発を無くす全国連絡会・さよなら原発1000万人アクションの3団体が共同で主催。日比谷野外音楽堂、霞ヶ関一帯、国会議事堂周辺に、のべ3万2000人が参加して、「エネルギー基本計画」を閣議決定して再稼働に向けて突き進む安倍政権に「ノー」の声を突きつけました。

会場に入れない多くの参加者・日比谷公園にて

「福島を忘れない」の思いなど、プラカードや横断幕を持ち、集会後は国会へ請願デモを行いました。まますます警備が厳重になり道路から入れなった方も。

集会に参加して

東日本大震災に伴う福島原発事故から丸3年を迎える2日前、東京日比谷野外音楽堂の集会と国会を包囲する「原発ゼロ」の大統一行動に参加しました。

午後1時開会でしたが、遅れて会場に入ることができませんでした。午後2時から国会まで請願デモ行進「原発いらない」「再稼働反対」「輸出をやめろ」「子どもを守れ」など元気に唱和しながら、原発事故は絶対に風化させてはいけないこと。原発ゼロを強く決意しながらの行動でした。

東深井・菊池伍郎

暮らし優先の予算で

3月議会

植田和子

4月からの消費税増税を前に、個人消費の伸び悩み、円安による原材料費の高騰が中小企業経営や国民生活を脅かす中、2月20日から3月24日の33日間、流山市3月議会が行われています。流山市のH26年度予算案は一般会計で502億円と史上最高となり、2大プロジェクト（小中併設校と総合体育館建て替え）推進のため新たな借金が公債費の1・5倍になります。暮らしや福祉、防災など市民が願う市政運営との矛盾は広がります。日本共産党は暮らし最優先をモットーに3月議会に臨んでいます。

植田市議一般質問から

1、高齢者の介護問題と今後の対策について
①「保険あって介護なし」と言われる介護保険制度について、②保険料値上げなど国民負担なしで介護制度を充実させる方向について、③国・県の協議の場について

2、『いじめ防止対策推進法』に基づく市の対応や、各学校における基本方針策定についてなど

3、『地産地消』の現状評価や産業活性化の展望についてなど

4、北部地域のまちづくりについて

◆この中で、植田議員は①運河地域の生活利便性の向上②ネグロス跡地の大型商業施設新設についてなど質問しました。

土木部長からは、懸案の運河駅の郵便ポストは昨年11月郵便局に要望し、今後現場立会いを行い、25年度内設置を目指す。大型商業施設の住民への説明会のあり方は今後業者に指導していくとの答弁がありました。

傍聴記

●植田議員の一般質問を傍聴し、本当に地域の議員として心強さを感じました。議員の質問は分かりやすかったのですが、市の答弁は分かりにくい面もあり、あたりさわりのない答弁もあったように思いました。最後の答弁も、質問とかみ合わずどうかと思うような答弁でした。また、定年退職になる部長に、ねぎらいの言葉をかけましたが、議員の人間的な心の温かさを感じました。

美原・Y

●時間の許す限り傍聴しています。何時も思うのは議員の質問に対して前向きな答弁が少ないように感じてなりません。確かに、大型開発や日本一の併設校に莫大な税金をつぎ込んでいますが、同時に国の施策によって福祉関係の国庫補助も削減されています。税金の使い道がそのような答弁になっているのかな?と、頭をよぎりました。

安倍内閣の暴走が続く中、職員の皆さんも厳しさを増しているのではと思いますが、自治体本来の役割を失わない様、頑張ってほしいと感じた傍聴でした。

東深井・K

こんにちは　植田和子です

2月27日　みなさん、いつもお疲れ様です。無事に、一般質問が終わりました。雨の中、傍聴に来てくださり、本当にありがとうございました。今回、2年ぶりに執行部から反問を受けましたが、想定していた反問がきたので、落ち着いて対応することが出来ました。

次は、来週の委員会準備です。再来週からは、予算委員会も始まるので、その準備に追われます。

3月14日　今日は予算委員会の最終日でした。3月議会の一般質問でも、多くの議員が取り上げた、『4月から放射能対策室を廃止して環境保全係にする』という件ですが、今日の予算委員会の総括質疑の中で、市長から、「放射能対策室は廃止にするが、環境政策放射能対策課と名称を変更する」との答弁がありました。今現在の「環境政策課」が、4月から「環境政策放射能対策課」になります。またも世論が市政を動かしました。

それから、子どもの医療費助成制度についてですが、日本共産党だけでなく、他の会派からも、『流山市は東葛6市の中でも乗り遅れた。中3まで引き上げるべきだ』との質疑が多数出ました。その結果、市長から「子ども子育て会議の中でも意見を聞いて、H26年度中に中3までの拡大を判断していきたい」との答弁が出てきました。

（2面記事参照）

ヘッドライト

大震災と原発事故から早3年。被災後の仮校舎で入学した中学生、高校生は、とうとうそのまま卒業だ。大切な時期の学校生活をこんな形で過ごさなければならなかった子ども達のことを思うと心が痛む▼除染も進まず、住宅も建たず、復興には程遠い。なぜ進まないのだろう。住民の合意が難しいのも分かる。しかし国民みんなが復興増税を背負っているのに、その金はどこに行ったのか?東電が汚した土地は立ち入りさえ出来ずに、本人の意思に反して放棄される。地域丸ごと捨てられるのだ▼猫の額ほどの狭い土地も大切に開墾して食べ物を育てて来たのが日本人だ。そして「もったいない」という日本語が素晴らしい文化として評価され、国民も使い捨て消費を見直して生活を変えようとしている▼ところが今また安倍政権は公共事業や軍事費を拡大して無駄遣いを広げ、大企業は若者を使い捨てにし、彼らは一体になって無駄なダムや道路をつくり、国土も使い捨てにしようとしている。さらにいま、原発によって国土が使い捨てにされようとしているのだ。目先の景気回復だけに目を奪われてはなるまい。

原発から撤退 ただ今原発ゼロ!!